



<連載⑧>

「さんふらわあ とさ」のジャズポート



大阪府立大学海洋システム工学科助教授

池田 良穂

今年の3月にIMOのSLF（船舶の復原性・喫水線・漁船に関する小委員会）に出席するためにロンドンに滞在していたある夜、友人と連立ってソーホーのジャズレストランに立ち寄った。金曜日の夜であったこともあってか、飛び込みで入ると立見席しかとれずに、大混雑しているバーカウンターから1杯のスコッチの水割りをなんとか手に入れ、ぎゅうぎゅうづめの中でジャズ・ライブを楽しんだ。筆者の学生時代には、大阪の南にもいくつかのジャズ喫茶があり、ジャズを聞きながら苦いコーヒーを飲むのが流行りであった。そんなことを思っ帰国してからしばらくたって、ブルー・ハイウェイ・ラインから、東京湾で「さんふらわあ とさ」を使って、1泊の「ジャズポート」を実施するので乗船しませんかという御誘いがあった。

まさに渡りに船とはこういう事かもしれない。というのも、当日はシンポジウムに出席のための出張で東京に出ている時にちょうど重なっていたのである。こうしてラッキーづくめの連続のうちに、同船のジャズポートに乗船することとなった。

夕方に、シンポジウムが終ると同時にタクシーで有明のフェリーターミナルに向った。フェリー

埠頭の周辺は、今、都議会でのおおめになっている都市博の会場となる予定だった所で、すでに臨海副都心構想に基づいていくつかの立派なビルが建設されていた。青島知事が中止を決断する直前だったので、いったいどうなるのかが興味津々といったところであった。

さて、ターミナルには「さんふらわあ とさ」が着いている。いささか、船体には錆が目立っており、老骨に鞭打ってがんばっているようで若干しみりとしてしまう。この船は、今でも大型フェリーの代表中の代表とも言える「さんふらわあ」姉妹の4番船「さんふらわあ8」として来島どっくで日本高速フェリー向けに昭和48年に建造された。現在は、ブルー・ハイウェイ・ラインの傘下に入って、船名も「さんふらわあ とさ」と改名して、東京～那智勝浦～高知航路に就航している。同航路では31日が休航日となっており、それを使っのワンナイトクルーズとして「ジャズポート」が企画された。最近、クルーズ客船界でも、テーマを持たせて同好の士を集める企画を積極的に行なっており、「テーマクルーズ」と呼ばれている。この「ジャズポート」もまさに「テーマクルーズ」





である。

6時に乗船すると、レストランではすでに食事が始まっている。入口ではジャズ演奏で迎えてくれて雰囲気盛り上げている。食事は定期航路の場合と同じカフェテリア式だが、ルイジアナの名物料理である「ケイジャン料理」のワゴンがでたり、デッキには焼鳥の屋台もでている。アルコールは飲み放題。

いよいよ 9時にはジャズライブの1回目のステージが始る。出演は、外山喜雄とデキシード・セイント、ドリーペーカー、水森亜土。ルイ・アームストロングの名曲をはじめ、デキシードジャズを堪能できた。また乗客の盛り上がり方もすごかった。筆者と同年代から年配の人が多かったが、手をたたき、もう踊りあがらんばかりの熱気である。ジャズが青春時代そのものであったのであろうか。



このジャズのライブ演奏が2回あった。また、船上ではダンス、カジノゲームを楽しんだり、日本の名酒コーナーでめったに飲めない幻の酒に出会ったり、サウナで汗を流したり、といろいろの楽しみかたができる。ちょっとお腹が空いた頃にはナイトビュッフェも。

深夜まで楽しんで、帰る心配がないのも船のよいところであろう。すっかり満喫したら、自分のキャビンに戻ってゆっくりと眠る。窓から朝日が差し込む頃には、「さんふらわとさ」は東京のフェリーターミナルに着いている。下船は7時からできるから、会社に行くことも出来る。すこし時間のある人は、レストランで朝食をとってからゆっくりと10時までに下船すればよいことになっている。

ブルーハイウェイラインでは、他の航路でもこうした企画を臨時のクルーズとして、また定期航海の中でも取り入れたい意向のようだ。ぜひとも、筆者の地元の大阪から志布志への航路でもこうした企画を実施してもらいたいものだ。先日、震災にあった神戸で「ジャズフェスティバル」の企画を行なっているアマチュアの人々が、会場さがしに奔走している姿が放映されていた。「神戸復興祈願のジャズポート」なども、きっと神戸や大阪の人々の意気高揚のお役にたてるかもしれない。



最後に、このほど、ひかりのくに(株)から幼児向けのピクトリアルブック「乗物スーパー百科④」として「ふね-きゃくせん・こうそくせん-」を出版しました。最近の若い人々の船離れに、いくらからでも歯止めをかけるお手伝いになればと、最も若い層をターゲットに出版した本で、最近の高速客船、クルーズ客船をはじめとするいろいろな船のカラー写真を満載しています。ぜひご笑覧のほど。



発行図書案内

定価・発送費(〒)は消費税込み

* 海事関係図書出版 **成山堂書店**

図書目録進呈 ▶ 〒160 東京都新宿区南元町4-51 成山堂ビル
Phone 03(3357)5861・FAX03(3357)5867

海と船の いろいろ

好評
発売
中

大阪商船三井船舶(株)
広報室・営業調査室 共編
この一冊で誰もが海事通になれる。
船、海運、そして海洋現象に関する
あらゆる知識やエピソードを満載。
四六判 242頁 定価1800円(〒360)

ヨット<春一番>のサーガ

野本謙作者 関西造船界の重鎮として知られる
著者が和船型の特長を引き出して製作した
愛艇<春一番>の生い立ちと思い出の航海を書
き記した。四六判 220頁 定価1600円(〒390)

●交通ブックス 206

船舶を変えた先端技術

瀧澤宗人著 船舶が持つ長い歴史と先端技術の
出会いが海運の新時代を築く。未来の船の
姿を展望。四六判 206頁 定価1500円(〒360)

船舶の軸系と プロペラ

(元)海難審判事務所長 石原里次著
ジェットフォイルやTSLなどの
新推進技術も盛り込み、推進軸系・
プロペラの保守・管理を実務者、海
技試験受験者向けに解説した書。
A5判 170頁 定価3000円(〒390)

帆船

—海と空と風と—

今川日出男著
男の人生にとって海とは何か!?恋
とは何か!?練習帆船“海王丸”を舞
台にくり広げられる青春と貨物船
船員の孤独な漂流を描く小説二編。
四六判 314頁 定価1800円(〒390)

キャプテンU氏航海記

梅原 清著 何もない平穏な海は、時折過ぎた日々をふと思ひ出
させる。船乗り達の喜怒哀楽を、側に来て語り聞かせてくれるよ
うに綴ったある船長の航海記。四六判 228頁 定価1800円(〒360)

【船舶安全法シリーズ】各巻共：運輸省海上技術安全局監修

- ① 最新 船舶安全法及び関係法令 定価5000円(〒430)
- ② 最新 船舶設備関係法令 定価3400円(〒390)
- ③ 最新 船舶機関・構造関係法令 定価3400円(〒390)